

ラスボスの思想(3)

人造人間

春日信彦



目次

自己満足

人は、何を求めて生きているかという、端的に言えば、自己満足です。自己満足は、その人によって、それぞれ違うでしょう。自己満足が、他人と調和するものであればいいのですが、他人に危害を加えることによって、得られるものもあります。

他人に危害を加える例として、怨恨による殺人だったり、戦争での殺人です。怨恨による殺人は、感情的なものだから、なんとなく、理解できるように思われますが、戦争での殺人が、自己満足となりうるようには思えない人が多いのではないのでしょうか。

戦争での殺人は、国益のためであり、国家の正義に基づいた、国家の命令によって行われるものです。このように言い表せば、戦争での殺人は、個人の自己満足とは無関係のように思われます。

人は、本当に国益のために殺人をするのでしょうか？ 単に、軍隊の上司の命令を受けたから、殺人をするのでしょうか？

本来、人は、何の敵意も、憎しみもない人を殺すでしょうか？ もし、人が、何の憎しみもない他人を殺すことを娯楽とする性格を持っていたならば、毎日、殺人だらけになってしまうでしょう。

人というのは、本来、かなり強度の憎しみを抱かない限り、協調しあって、生きていくものなのです。現に、歴史的に戦争は起きてきたものの、世界の人口は徐々に増加し、各民族において異種多様な文化が創造されてきたのです。

では、なぜ、戦争になると、人は何んの憎しみもない人を殺すことができるのでしょうか？ 鉄砲で、爆撃機によって、人を殺すたびに、人は喜んでいるのでしょうか？
実は、誰一人として、喜んでいる人はいないのです。

人は、自己満足のために生きていと述べました。それでは、殺人によってどんな自己満足を得てるのでしょうか？ おそらく、ほとんどの人は、自己満足のためでなく、国家の命令だから、いやいやながら、人を殺していると言われるでしょう。

仮に、戦時下において、神を信じる慈悲深い軍人が、殺人は人道に反すると思い、自分ひとり、軍隊から脱走し、山中に隠れてしまったら、彼は、国民からどのように思われるのでしょうか？

きっと、彼は、多くの人から、勇気のない卑怯者、非国民といわれるでしょう。そうです、彼は、多くの人たちから非難され、疎外されるのです。いや、彼だけでなく、家族や親戚たちも、周りの人たちから、非国民といわれ、イジメを受けて、村八分にされてしまうのです。

人にとって、疎外されること、多くの人から、罵られイジメられることは、最強の恐怖となるのです。また、ほとんどの人は、疎外とイジメによる恐怖に打ち勝つことはできません。

だから、人は、組織による強烈な恐怖を回避するために、良心を捨て去り、戦争で動物を殺すかのように人を殺すのです。つまり、心の強烈な恐怖と闘うことによって味わう苦痛を避けることによって得られる安息、という自己満足を人は選んでいるのです。

残念ながら、組織、国家が人に与える恐怖は、永遠に、無くならないかもしれません。また、人は、永遠に、それに打ち勝つことができないかもしれません。もしそうであれば、戦争は、永遠に無くならないということになってしまいます。

人は、恐怖から逃避し続ければ、生まれながらにして持っている協調、調和の心を失ってしまうのです。だから、今でも、国家への恐怖から殺人をしていると自覚していたとしても、国益のためだと自分を偽って、戦場で殺人をしているのです。

人間の脳新皮質が、他の動物に比べかなり発達しているとはいえ、人間が動物であることには変わりありません。人間が動物である限り、脳辺縁系に引き起こされる恐怖心はなくなりません。

おそらく、人は、未来永劫、組織を、国家を、作り続けるでしょう。ならば、人は、組織から、国家から、恐怖を与え続けられることになります。

誰も、戦争をしたくありません。誰も、人を殺したくありません。でも、組織、国家、があるために、人は戦争し、殺人を犯すのです。

AI ロボ管理社会

人間の自己満足と恐怖心について、考えてみましたが、AI ロボはどうでしょうか？ AI ロボは動物ではないので、恐怖心はありません。だから、恐怖心を起因として、AI ロボが殺人を犯すことはありません。また、AI ロボには、自己満足もないということです。

国家がなくなれば、戦争もなくなる、という妄想を持つことはできますが、仮に、国家を減少させることはできても、国家をゼロにすることはできません。また、たとえ、世界が一国になったとしても、利害が対立する組織は、必ず、誕生します。

こう考えていけば、永遠に、戦争は続くことになります。それでは、戦争をしない人間をつくることは可能なのでしょうか？ AI ロボのように自己満足を求めない人間をつくることができればいように思えますが、それは、言い換えれば、全く欲のない人間をつくるということです。食欲がない人間は、餓死してしまいます。これでは、人間は、全滅してしまいます。

AIロボのような自己満足を求めない人間をつくることは、現実的に、不可能です。また、自己満足を求める人間が人間組織を管理する限り、必ず戦争は起きるといふことです。

それでは、どのような組織管理をすれば、戦争は起きないのでしょうか？ 人間組織が戦争しないためには、戦争を必要としない組織環境を作る必要があります。仮に、すべての人間組織が、精神的、物質的に満足できたならば、戦争は不要となります。

戦争を必要としない人間組織をつくる方法として、自己満足を求めない AI ロボが、人間組織の利害調整を行う管理社会をつくることです。

まず、戦争をなくすためには、戦争を引き起こす最大の要因であるマネーゲームを排除しなければなりません。人間組織に利害が生まれるのは、人間が価値を生み出し、それをマネーゲームに変換するからなのです。では、それに代わる方法はあるのでしょうか？

そこで重要な役割を果たすのが、自己満足を求めない非生物の AI ロボです。AI ロボが価値を生み出し、お金を媒介とせず、人間組織がその価値を平等に享受するのです。つまり、可能な限り、AI ロボが人間に必要な物資を生産し、そして、人間は平等に物資の分配を受けるのです。

自己満足を求める人間と自己満足を求めない AI ロボが、共存する世界を作り出すのです。一見、妄想のように思われますが、これは実現可能なのです。近い将来、戦争を不要とする AI ロボ管理社会が構築されることでしょう。

人造人間

私は、小学生のころ、いずれ、人間は、人間を人工的に作り出せるようになるという妄想を持っていました。それは、フランケンシュタインのドラマからの発想でした。

誰も一度は、子供のころ、どうやって子供が生まれてくるのか、疑問に思い親に質問したことがあるのではないのでしょうか？ そんな時、ある人はコウノトリが子供を運んでくると聞かされたのではないのでしょうか。疑い深い子供は、さらに、コウノトリは、どこから子供を運んでくるのかと質問したかもしれません。

小学校では、生物の時間に、人間は、男子が持っている精子と女子が持っている卵子の結合によって誕生すると習います。一応、教科書に書いてあるから正しいと納得するのですが、不思議な事実だと思いました。

アニメの世界では、鉄腕アトムが空を飛び、ロボットが話をします。さらに、ドラえもんとのび太君がタイムマシーンで原始時代に飛んで行ったり、透明人間になったり、人間では不可能と思われることをやってのけます。これらがアニメだとわかっているにもかかわらず、ますます、人間が人工的に人間を作ることは可能だと思えるようになりました。

でも、人工授精に成功した、AI ロボが開発された、というニュースはありましたが、精子と卵子を人工的に作り出したというニュースは、いまだ、ありません。やはり、人間の知能にも限界があるにつくづく実感しました。

人工的に作り出された精子と卵子による人造人間はムリだとしても、集積回路 (IC) と人工知能 (AI) などを使った人間のような感情を発現する AI ロボが開発されるのでしょうか？

今では、AIが進化し、人間以上の知能を持つようになりましたが、AIロボと人間が共同研究したとしても、AIロボに感情を持たせるようになるには、まだまだ、先のことのように思えてなりません。

人には、複雑な喜怒哀楽の感情があります。感情はどのようなメカニズムで発現するのでしょうか？非生物のAIロボには、当然、感情はありません。AIロボに人間のような感情を持たせるためには、まず、感情とは何かを解明しなければなりません。

感情はニューロン機能によって発現されますが、厄介なことに、ニューロン機能には、電気作用と化学物質作用があるのです。電気作用については、集積回路に見られるように、かなりの技術の進歩がみられますが、化学物質を媒介とする生物的技術開発は、まだまだ、未熟なのです。

脳機能の特徴は、シナプス間隙において神経伝達物質のやり取りを行う点にあります。ここに多くの謎があり、未知の世界が広がっています。一方、集積回路 (IC) は、生物ではないので、電気のみで機能しています。

そこで、AIと脳について比較してみると、AIと脳には、相違点もありますが、共通点もあります。それは、ともに電気が流れる点です。

人造脳を作るとして厄介な点は、脳機能が化学物質を媒介としている点です。シナプスにおけるいくつかの化学物質を特定し、製造したとしても、人造シナプスを作り、人造シナプスから神経伝達物質を放出するための条件を設定しなければなりません。さらに、樹状突起に電位を起こさなければなりません。

今のところ、ニューロンもシナプスも人工的につくる技術は、ありません。この技術ができれば、人工的にあらゆる細胞をつくることができ、精子と卵子を人工的に作ることも可能でしょう。そうなれば、正真正銘の人造人間の誕生です。

精子と卵子を人工的に作り出せれば、いろんな人間を作り出せるでしょうが、このようにすることができるようになるのは、数世紀先のことでしょう。

でも、今のように、平気でお互いを殺しあうようなレベルの人間ばかりでは、人造人間の開発はムリかもしれません。まずは、神に与えられた脳を有効活用できるようになりたいものです。

ラスボスの思想(3)

著 春日信彦

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
